

# 放置柿でジャム 一石二鳥

## 篠山東雲高生が開発

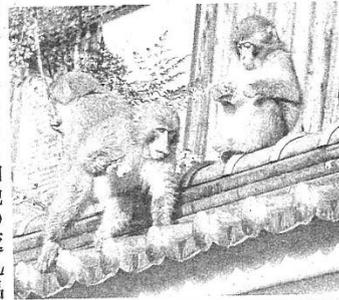
## 猿対策 × 返礼品採用

丹波篠山市の県立篠山東雲高校の生徒が、猿による農作物への被害対策などの一環で収穫した柿を有効活用した柿ジャムを開発した。特産の黒豆、栗で作ったジャムと3種類の食べ比べセットとして、市のふるさと納税の返礼品に採用され、生徒らは「ジャムをきっかけに農都・丹波篠山の課題を知ってもらいたい」と話している。

市によると、市内には現在、約200匹のニホンザルが生息。果樹や豆類を中心に125㍉で計143万円（2022年度）の農作物被害が出ており、人家に現れ、屋根や土いを壊す事例も後を絶たないという。被害が深刻な畑地区では、高齢化や人手不足で放置された柿を、猿が食べる前に収穫するイベント「さる×はた合戦」を2013年から開催。獣害対策として効果がある一方、集まった柿の活用方法が課題で、催しを知った篠山東雲高の生徒が約4年前から柿ジャムの商品化を目指しては、高齢化や人手不足で放置された柿を、猿が食べる前に収穫するイベント「さる×はた合戦」を2013年から開催。獣害対策として効果がある一方、集まった柿の活用方法が課題で、催しを知った篠山東雲高の生徒が約4年前から柿ジャムの商品化を目指して

今年「食品加工・研究」を学ぶ2年生11人が実習で柿を収穫。先輩たちが残した研究成果も参考にしながら、使用する柿の種類や調理方法などについて試行錯誤を重ねる中、冷凍した実を解凍して、砂糖などを加えて煮込むことで商品化に成功した。

今年「食品加工・研究」を学ぶ2年生11人が実習で柿を収穫。先輩たちが残した研究成果も参考にしながら、使用する柿の種類や調理方法などについて試行錯誤を重ねる中、冷凍した実を解凍して、砂糖などを加えて煮込むことで商品化に成功した。



柿を食べているニホンザルさん提供



丹波篠山市で、黒豆と栗を使った柿ジャムを開発した生徒が、ふるさと納税の返礼品に採用されたジャムを手にしている。



◆読売新聞オンライン  
読者会員登録で大阪本社版朝刊の各地域版がカラーでご覧いただけます

ふるさと納税の返礼品は、柿ジャムと獣害対策によって守られた黒豆と栗を使ったジャムの3種類がセット（各2個、1瓶150㍉入り）になっている。限定50セット。1万円の寄付が対象になる。

開発に携わったさんは「さっぱりとした柿の味が出るように煮詰める時間など苦労したが、おいしくできた」と振り返る。ほかの生徒も「アイスクリームにかけたらいい」「返礼品から多くの人に丹波篠山のことを知ってもらって、応援してくれるとうれしい」と話していた。

生徒たちの取り組みに、獣害に悩む市は「地域活性化に一役買ってくれてありがたい。猿の襲来を防ぐ地域のモデルケースになれば」と期待を寄せている。

2023年12月22日

読売新聞